

平成24年1月

仲松暁 学位論文審査要旨

主査 北野博也
副主査 林 一彦
同 小川敏英

主論文

Correlation of apparent diffusion coefficients measured by diffusion-weighted MR imaging and standardized uptake values from FDG PET/CT in metastatic neck lymph nodes of head and neck squamous cell carcinomas

(頭頸部扁平上皮癌リンパ節転移巣におけるMRIのADC値とFDG-PETのSUV値の比較検討)

(著者：仲松暁、松末英司、三好秀直、柿手卓、神納敏夫、小川敏英)

平成24年 Clinical Imaging 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は頭頸部扁平上皮癌の頸部リンパ節転移巣において、MRIの拡散強調像におけるADC値とFDG-PETのSUV値を比較検討したものである。その結果、MRIのADC値とFDG-PETのSUV値との間には有意な逆相関が認められた。すなわち、ADC値が低下しているリンパ節ではSUV値が上昇している傾向にあることから、MRIの拡散強調像とFDG-PETを相補的に評価することで、頭頸部扁平上皮癌の頸部リンパ節転移の診断能が向上するものと期待される。

本論文の内容は、頭頸部扁平上皮癌の頸部リンパ節転移の評価の精度向上に関して新たな知見を加えたものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。